

第1回 みよし市まち・ひと・しごと創生会議
議事要旨

日時：平成 27 年 8 月 25 日（月） 13:30～14:45

場所：みよし市役所 3F 研修室 1・2

出席者

区長会	熊谷 津田子
三好高校	桑田 厚司
あいち豊田農協	鈴木 文生
子育てクラブ連絡協議会	時田 美由紀
豊田信用金庫	松井 豊
みよし市工業経済会	村上 雅則
東海学園大学（学生）	村岸 見咲

政策推進部	部長	藤根 金光
	次長	柴田 圭一
	企画政策課長	野々山 清
	企画政策課副主幹	竹内 勇治
	企画政策課主査	芳村 達史
大日本コンサルタント（株）		足立、島

議 題

1. あいさつ
2. みよし市人口ビジョン（案）について
3. 今後の予定について

議 事 要 旨

1. あいさつ

- 政策推進部部長よりご挨拶
- 出席者による自己紹介
- まち・ひと・しごと創生総合戦略についての説明

0. 開会にあたり

■政策推進部次長

- ・第1回目なので出席者を名簿順に紹介させて頂くが、大村委員、加藤委員、湊委員、鰐部委員からは欠席連絡あり。
- ・(委員紹介)

1. あいさつ

■政策推進部部長よりご挨拶

- ・少子高齢化の進展に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに東京一極集中を是正し、地方の住み良い環境を確保して、将来にわたって活力のある社会を維持していくため、国は人口ビジョン及び総合戦略を昨年12月に閣議決定。これに基づき地方自治体においても、地方版人口ビジョン・総合戦略の策定を求められている。
- ・本会議は、みよし市版人口ビジョン及び総合戦略の策定にあたり、幅広い分野のみなさまからご意見を伺うという会議であり、本日は2つの計画のうち、人口ビジョン(案)についてのご意見を伺う。

■政策推進部次長より

- ・事務局の紹介
- ・会議の内容に入る前に、本会議の目的を説明します。本会議は、要綱にも示すとおり、まち・ひと・しごと創生法に基づき地方版人口ビジョン及び総合戦略の策定が努力義務化されている。これに伴い、住民の方々をはじめとし、産業界、教育機関、金融機関、労働団体のみなさんに参加頂き、外部の視点からご意見・助言を頂くことを目的に設置。この会議で頂いたみなさまのご意見を参考に本市の人口ビジョン及び総合戦略を策定する。
- ・会議については、今回を含め3回程度を予定。

2. まち・ひと・しごと創生総合戦略について

■事務局より説明

- ・まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する経緯は、H26.9.3に内閣総理大臣を本部長とする「まち・ひと・しごと創生本部」が設置。その後、H26.11.28に「まち・ひと・しごと創生法」が公布・施行、この法律は、東京圏への人口の集中を是正して、それぞれの地域、地方が住み良い環境を確保するということで、将来にわたって日本社会を維持していくということを目的としたもので、国でも「総合戦略」が策定され、地方都道府県・各市町村についても、総合戦略を定めるようにというのが法律の内容。
- ・国の総合戦略は、H26.12.27に閣議決定され、基本的な考え方として、東京の一極集中の是正、若い世代の就労・結婚・子育ての希望をかなえる、地域の特性に即して課題を解決するに基づき、4つの基本目標が示された。
- ・愛知県のほうでは、H27.2に総合戦略推進本部が設置され、会議も開催されたようだが、その中で

愛知県の強みを伸ばし、産業を強くし働く場を創るや地域の魅力を発信する、国の方でも示している結婚・出産・子育ての希望をかなえる、活力ある地域をつくるという4つの視点に基づき、しごとづくり等の6つの検討していく主な取り組みの方向が示されている。

- ・みよし市においても、3月に同じく副市長以下で構成するまち・ひと・しごと創生推進本部を立ち上げ、今回示す人口ビジョン(案)の作成を行ってきた。
- ・地方版人口ビジョン及び総合戦略については、国の方から作成についての考え方が示されており、人口ビジョンについては、人口の現状を分析し将来の展望をつくり、それをもとに総合戦略でH27～31年の5ヶ年の目標とそれを実現するための施策を提示するということを念頭に、本日は「みよし市人口ビジョン(案)」について、ご意見を伺いたいと思う。

3. 「みよし市人口ビジョン(案)」について

■事務局より説明

- ・目次下段の注釈について、人口推計にあたって、国が実施しているものについては、国勢調査を基に実施しており、みよし市の場合、特異な状況として名古屋刑務所の約2,000人が含まれることとなるので、このあとも説明するが注意して欲しい。

①人口の現状分析のまとめ

- ・グラフは、人口のこれまでの推移と国、社人研(国立社会保障・人口問題研究所)が推計した将来人口をそのまま示している。日本の人口はH20の1億2,809万9千人をピークに人口が減少しているが、みよし市については、S60に3万人を突破し、その後の人口増加が続き25年で約2倍となった。なお、社人研が推計した結果では愛知県の人口はH32(2020)にピークを迎えるとされるが、みよし市については、H52(2040)に65,515人と推計され、愛知県内においてH52まで人口増加がつづくのは、本市を含め5市町とされている。
- ・本市の総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響について、まず自然増減は出産・死亡に伴う人口増減、社会増減は転入・転出に伴う人口増減をいう。みよし市の場合、概ね自然増・社会増の傾向にある。
- ・年齢3区分別人口の推移については、前頁に示した総人口を14歳以下の年少人口、15～64歳の生産年齢人口、65歳以上の老年人口の各層の2040年までの人口を示したものである。みよし市の場合、生産年齢人口の割合が高く2040年まで安定した人口がいるものと推計されている。なお、全国的な傾向ではあるが、H27には年少人口を老年人口が逆転すると推計されている。棒グラフは折れ線グラフを各層の構成比として示したもので、H52には65歳以上の老年人口が28.9%と増え、生産年齢人口・年少人口の割合が減り、H52は生産年齢人口2人で高齢者1人を支えるということになる。
- ・年齢階層別純移動数の時系列分析について、縦軸は移動数で転入が多ければプラス、転出が多ければマイナスを示し、横軸は年齢、グラフは各5年間での移動を示している。多い少ないはあるが、20代・30代については、近年転入超過の状況にある。
- ・合計特殊出生率について、合計特殊出生率とは、15～49歳までの女性が生涯に何人子どもを出産するかといった数字で、みよし市・県・国の値を示している。若干の上下はあるが、直近のデータ

でみよし市の合計特殊出生率 1.81 と県・国よりも高いという状況にある。

- ・国による将来人口推計は、社人研の推計は 2040 年までのため、人口ビジョンで求められる 2060 年までを国が推計したものである。これによると総人口のピークは 2040(H52)の 66,513 人、2060(H72)には 62,485 人と推計され、一旦ピークを迎えたのち減少、高齢化率も 28.9%まで上昇するとされている。
- ・人口減少を捉えた中で、どのような影響があるかを地域経済といった視点で整理すると、当然ながら高齢化が進めば社会保障費が増加し、生産年齢人口の負担は増加するといったことになる。参考として示したのが、生産年齢が減少するということは、税収例えば個人市民税は減少し、高齢化が進むと社会保障費ということで、例えば介護給付費は増加するというものを示しており、生産年齢人口の減少と高齢化の進展が市の財政の状況にも影響を与えるといったものを示したものである。
- ・将来人口推計シミュレーションについて、国は長期ビジョンの中で「出生数の増加」「転出抑制・転入増加」、つまり自然増と社会増を同時並行的、相乗的に進めていくことが人口増加をさせていくための要因として示されているところではあり、事務局のほうでシミュレーションした中では、合計特殊出生率及び移動率の維持、つまり自然増を促進し社会減を抑制するというのが目指すべき方向と考えている。国は合計特殊出生率 1.43 を 1.8~2.07 に上昇させなければ人口の維持・増加は難しいとしており、2.07 は日本の全人口を 1 億人程度確保するための出生率、1.8 は若い世代が結婚や仕事、子育てなどの希望がかなえば達成できる出生率として示されているものである。愛知県については、H72 に人口 701 万人を維持するためということで、合計特殊出生率 1.8 を目標に掲げている。みよし市については、このシミュレーションを実施する中で、直近 5 年が出生率 1.81 であり、これを将来にわたっても維持していくことが人口増加につながっていくので、合計特殊出生率の維持を目標として掲げる。移動率については、ここ 10 年の推移を企業等の関係もあり大幅な転入増を見込むことは難しいが、若干ではあるが社会増の傾向は続いているので、この状況を将来にわたっても維持していきたいということで、移動率の維持を目標として掲げる。

②本市の人口ビジョン

- ・ここまでの人口の現状分析、また、将来人口推計シミュレーションの結果を踏まえ、総合戦略にもつながっていく基本的視点を 3 つ設定。
- ・1 つめとして、【若い世代の就労・結婚・子育て・教育などの生活基盤の整備】。若い世代の就労・結婚・子育てといった希望がかなえば出生率が上昇すると考え設定。
- ・2 つめとして、【若年層を中心とした生産年齢人口の転入・定住の促進】。地域経済等の影響もあるが、生産年齢人口という階層の方々がより多く転入していただき、転入して頂いた後は住み続けて頂くことが人口増加につながると考え設定。
- ・3 つめとして、【健康寿命の一層の延伸】。本市の高齢化率は全国と比べ若干低いものの、高齢化の進展は避けられない中、老年人口の方々、歳を召されても元気で健康で暮らしていただけるのが 1 番で、そのような元気な老年人口層が住み続けておられることで、生産年齢人口層がそこに住んでみようと転入人口が増加するといったことを期待し設定。
- ・最後に、シミュレーションの結果を人口ビジョンの将来展望として、【H72 年(2060)に人口規模 64,000 人を維持、H57 年(2045)にピーク人口 66,000 人】を目指すということで示している。なお、

この数値は、冒頭に説明した国勢調査の 2,000 人という数字を除いた数字である。なお、国による将来人口推計については、推計開始年次を H27.4.1 に変更し、同じ比率で推計させたもので、これと比較すると、国が H52(2040)に 64,940 人というピークが、人口ビジョンとしては H57(2045)の 66,190 人の 1,250 人、最終年度の H72(2060)には、人口ビジョンとしては 64,154 人、ピーク時よりも約 2,000 人減少はしますが、これを目指していく。年齢 3 区分別人口の将来展望は、総人口の将来展望を年齢区分で整理したものであるが、年少人口・生産年齢人口の減少をなるべく小さくしていきたいということを将来展望として掲げている。

4. 意見交換(質疑・応答)

村上氏：議題とは少し外れるかもしれないが、資料 p.8 について、社人研ではなく、特殊な方を引いた推計を用いているのはどうしてか。また、それに基づいて計算をしたのだが、今年の 2015 年は 59,885 人、p.4 のグラフでは 62,681 人でその差は 2,796 人である。また、2040 年の差 1,573 人、2060 年では 567 人になる。議題と関係のないことであり聞くのは申し訳ないが、名古屋刑務所の人口は減るのか？

事務局：平成 27 年までの人口は社人研による人口推計は平成 22 年までの国勢調査をもとに行っている。独自で行った推計については、刑務所の人口を抜いて推計を行っている事を理解していただきたい。

村上氏：人口ビジョンは市独自に総合戦略を立て、人口維持を実現に向けたものならば、具体的にこの推計はどのような施策を考えているのか？

事務局：この推計の基となっているのは、現在の合計特殊出生率 1.81 であり、これを維持するために、子どもが育てやすい環境を確保してこうというものである。そのために、前のページにある 3 つの視点で総合戦略を作成していくことを考えています。

熊谷氏：我々に将来人口のビジョンについての意見を求めているのか、それとも人口を維持していくための方策についての意見を求めているのかが明確でない。我々に聞きたい内容をわかりやすく専門用語を抜いて説明してほしい。

事務局：みよし市として、このように人口が推移しますよという事を説明させていただいて、これを実現するために、どのようなことをやろうというのを次回以降の会議でお示し、ご意見をいただきたいと考えています。

熊谷氏：人口ビジョンについては、意見を求められても答えられない。

事務局：人口推計についての説明はご理解いただけましたか？

熊谷氏：わかりやすかった。しかし具体的に「もっと住みよいまちにするには？」等であれば答えやすいが、漠然と「人口を維持するためには」であれば、子どもを育てる環境や人口増加できる土地利用としてのキャパがあるのかななどの細かい問題も発生すると思うので、ただ「産んでください」であれば、今のみよし市の状態であれば無理であると思う。

事務局：みよし市のどのような所を変えていけば子どもを産みやすくなると思われますか？

熊谷氏：子育てするお母さんが働く場所や、子どもを見てもらう場所を用意すればよいと思う。もしそのような場所が増えれば口コミで評判が広がっていくと思う。

事務局：いただいたご意見は、総合戦略の中でしっかりと検討させていただきます。

鈴木氏：p.8 は総合計画と数値はあっているのか？

事務局：将来的な数値は総合計画とは数値は異なっている。なお次期総合計画では、数値を変更する予定です。

鈴木氏：将来推計において、株が安くなるなど、社会経済情勢は不安定であるという事は考慮しているのか？

事務局：総合戦略は将来人口を見越したこれから 5 ヶ年の計画として作成するものです。総合戦略での計画は、次期総合計画にも反映し、総合計画は、もう少し長いスパンで政策を進めていくという事になります。また、国全体で言われている事とみよし市の現状ではギャップはあるが、本市においても将来的には人口が減っていくものと推測されるので、総合戦略では、これに備えてできる限り減らさないという計画を作っていきたいと考えています。

村上氏：社会増よりも自然増に集中するということか？ならば大きな社会変化は想定しているか？ソニーやシャープの撤退により、人口減少した都市もある。みよし市もそのような想定・チェックを行っているのか？本市の場合、それほどのリスクはないと思うが。

事務局：社会増減については人口増加が鈍化傾向となりはじめた直近5年間の移動率を用いています。なお人口ビジョンとしては、社会増に頼るのではなく、自然増を伸ばす政策を考えていきたいと思っています。

桑田氏：高校教師をしているため、学校教育の立場から、3つの視点へ協力できること、努力できることを提案していけばいいのかなと、捉えました。

時田氏：自分は子どもが3人いるが、漠然としていて話を振られても答えにくい。しかし、子育ての事などで具体的に聞いてくれれば発言したいと思います。

事務局：みよし市は子育てしやすい環境でしょうか？

時田氏：私は転入者で7年前に越してきたが、みよし市は子育てしやすい環境との印象である。以前住んでいたところでは、例えば子どもの医療費の事務手続きについて、手続き窓口が異なるなど面倒なことが多く、実際には利用していない人が多かったが、本市は全然違うと感じた。また、現在三好丘桜に住んでいるが、周囲に子育て世代も多く、相談しあっているし、学校まで遊歩道が整備され、安心して子どもを学校へ送り出せている。

事務局：今後も子育て世代の代表として、ご意見をいただきたいと思います。

松井氏：地域の金融関係の仕事を行っており、先日出席した全国の会合で、人口課題の厳しい地域が多いという話題になった。私は豊田市に住んでおり、みよし市の印象はコンパクトで、政策を遂行しやすいような期待感がある。

村岸氏：東海学園大学3年生で、名古屋市からみよし市に通学しています。みよし市についてはま

だまだ分からない事が多いですが、学生目線で発言していきたい。

事務局：学生さんということもあり、これから結婚して子育てしていく世代であり、その世代代表という事でご意見をいただきたいと思います。

4. 閉会にあたり

■政策推進部次長挨拶

- ・以上で第1回みよし市まち・ひと・しごと創生会議を終了します。
- ・次回は総合戦略について議論を行う。日程は未定で、決まり次第お知らせする。

以 上